

# 令和2年度学校関係者評価票

学校名：松戸歯学部附属歯科衛生専門学校

【学校関係者評価の主な評価内容】

○自己点検・評価結果の内容が適切かどうか ○自己点検評価の結果を踏まえた今後の改善方策が適切かどうか ○学校運営の改善に向けた実際の取組が適切かどうか。

評価項目	専門学校による自己点検・評価		学校関係者評価				
	取組状況・評価に対する意見	取組評価	取組状況・評価に対する意見等	優れている点、継続してほしい点	問題点・要望等	その他意見等	取組評価
カリキュラムポリシーに基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	<p>松戸歯学部附属歯科衛生専門学校では、全国歯科衛生士教育協議会から出されている「歯科衛生学教育コアカリキュラム～教育内容ガイドライン～」に従い、教育課程（コアカリキュラム）を編成している。</p> <p>毎年度、教育課程の実施方法、今後の計画等を「教学IR委員会」、「学事委員会」、「教員会」で行っており、その結果、授業内容・手法及び進級要件等を改善している。平成27年度より教育課程（カリキュラム）の変更を行い、さらなる教育課程の体系化を充実させている。必修・選択の別、単位数等はホームページ、学則、学修便覧及びシラバス上で明示している。</p> <p>これらコアカリキュラムは教育課程の編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）に基づいて策定されたものである。</p>	A	<p>「教学IR委員会」「学事委員会」「教員会」では、毎年度カリキュラムポリシー（臨床実習、臨床実地等）と各学年の成績を緻密に分析して、教育内容方法と評価を点検し、よりよい教育課程、学習支援を審議されていることが評価される。</p> <p>また、カリキュラムを学生に明示することにより、履修概念を植え付け自主的に行動するよう図られている。</p> <p>カリキュラムポリシーを基に教育課程を実施している。シラバス、カリキュラムポリシー等HP上に公開し、保護者、学生はいつでも確認することができる。1学年から、自主創造の理念を共有し、医療に向かう基本的な心構えを学ばせている。コロナ禍で中止の授業、実習もあるがオンライン授業を整備し新しい生活様式に対応した授業を行なっている。</p>	<p>他校より臨床歯科医学教育の時間が多く設けられている。</p> <p>本校オリジナルの科目も設けられており、効果的な学習方法の説明、実践などコアカリキュラムが充実している。</p> <p>歯科衛生士としての技術は卒業いくらかでも学べるが、医療人としての、心構えやピンチになったときの柔軟な創意工夫の考え方はじっくり授業でなければ学べない。カリキュラムポリシーの理念はとても重要だと思うので、継続して理念をしっかり植えつけて欲しい。</p>	<p>今後も成績等分析を続けていただき長期的なカリキュラムの評価検証をしていただきたい。</p>	<p>特記事項なし。</p>	A
成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	<p>松戸歯学部附属歯科衛生専門学校での成績評価である優・良・可及び不可の判定は、学則に記載されているとおりの点数で行われている。成績評価方法及び成績評価基準は学則、学修便覧に明示されているため、公正性・厳格性についても確保しているものである。</p> <p>本校では学年進級制を敷いているため、単位認定は進級判定と不可分である。各科目がシラバスに定めた評価方法に基づき提出された最終成績から、全科目の平均点を算出によって進級の可否が判断される。既修得単位認定は実施していないため、進級が不可となった場合は、翌年度に当該学年の全科目を再度履修する必要がある。</p> <p>シラバスの記載内容に関しては、科目の学修目標のほか、各授業項目、行動目標、準備学習項目、成績評価等が必須項目となっており、学生が自身の学習の指針として役立てられるようにしている。</p> <p>教員は、各科目で定めたシラバス内容に準拠し、前学期・後学期末に定期試験を実施し、各学生の学習成果の把握・評価している。シラバスはホームページを通じて学生・保証人が確認できるよう公開している。</p>	A	<p>明瞭な成績評価方法、成績評価基準が示されている。シラバスにより、学生本人の行動目標の確認ができて、自らフィードバックも行えることができ学習成果の把握ができる。</p> <p>シラバスはHP上に公開し、誰でもいつでも閲覧できる。成績の判定基準も明確、臨床実習も公平に実施されている。学年に応じて、例年適切な時期（1年生は入学時、2年生は臨床実習開始前、3年生は後学期開始時）に、保護者に対する説明会を実施しており、今年度についてはコロナ禍という事情の中、WEBを利用して臨機応変に対応された。</p>	<p>入学時、臨床実習前、3年後期授業開始時に、学生に成績の情報開示がなされており、それぞれに対する教員のサポート体制も充実している。</p> <p>常に自分の立ち位置を意識させ、自己フィードバックを繰り返し行わせ、知識と技術の向上を促すように導いている。</p> <p>シラバスは誰でもいつでもHP上で閲覧できるようになっている。臨床実習、課外も明確に表示している。判定も記述されている。この閲覧できる事で、学生自身の学習の指針となり、不安が無くなっている。</p>	<p>問題点は見当たらないので、今後も評価等に公正性、厳格性を確保していただきたい。シラバスを学生が効果的に利用し、日々の授業に望んで欲しい。</p>	<p>特記事項なし。</p>	A

# 令和2年度学校関係者評価票

学校名：松戸歯学部附属歯科衛生専門学校

【学校関係者評価の主な評価内容】

○自己点検・評価結果の内容が適切かどうか ○自己点検評価の結果を踏まえた今後の改善方策が適切かどうか ○学校運営の改善に向けた実際の取組が適切かどうか。

評価項目	専門学校による自己点検・評価		学校関係者評価				
	取組状況・評価に対する意見	取組評価	取組状況・評価に対する意見等	優れている点、継続してほしい点	問題点・要望等	その他意見等	取組評価
ディプロマポリシーに明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	<p>学生の学習成果に関しては、学生の到達目標である歯科衛生士国家試験の受験率及び合格率について、極めて高い水準を保ってきた（平成29年度までの5年間で国家試験受験率は100%、不合格者は1名のみ）ことから順調であると評価している。</p> <p>不合格者についても、翌年度に聴講生制度を利用して3年次の科目を受講し、翌年の国家試験に合格している。</p> <p>各学年のクラス担任は、各科目で実施される試験結果、最終成績や出席状況に加えて、講義や実習に向かう姿勢・生活態度の把握に務めており、学事委員会・教員会で報告が行われる。定期的に実施される二者面談（コンサルテーション）、三者面談（父母説明会）によって、学習成果や学内外の様子を含む状況の把握を行い、成績不良者については補講の実施等で対応をしている。</p> <p>また、学期の開始時に講師会及び臨床実習指導者会を開催し、科目担当者や実習指導者に対して、学生指導の指針や注意点、成績評価方法についての情報を共有することで、学習成果の適切な評価の実施に務めている。</p>	A	<p>学事委員会、教員会では、緻密な成績分析がなされており、クラス担任による生活面教育面に対する定期的、効率的な指導がなされている点が評価できる。</p> <p>カリキュラムポリシーの自主創造の理念を持った歯科衛生士の育成を目標に、問題提起のできる学生を育てている。成績不良者には聴講生制度も実施している。</p> <p>机上教育と臨床実習と担当指導者違うので、情報の共有化が図られて、学生の教育に望んでいる。臨床実習指導者会も実施され、病院内での実習指導者に対して、学生の指導方針等の確認をし、不平等さのない指導をしている。定期的に実施される二者面談、クラス担任、Drによる副担任制で学生への細やかなサポート体制を築いている。</p>	<p>歯科衛生士国家試験の受験率、合格率は高い水準を保っている。</p> <p>講師会、臨床実習指導者会を通じ、各種情報を共有化することで、適切な成績評価が実施されている。</p> <p>最終的な目標は歯科衛生士国家試験である。聴講生制度、クラス担任、副担任の細やかなサポート。各学年毎の面談を実施し、保護者とも状況把握をしている。学期の初めの講師会や臨床実習指導会を開催し各科目担当者や実習指導者に対して学生指導や注意点、成績評価方法の共有がされている。学生に寄り添う教育の継続を願う。</p>	<p>受験校の第一選択として、国家試験合格率が重視されるので、より一層の指導の強化を望みたい。</p>	特記事項なし。	A
教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。	<p>松戸歯学部の担当会には、附属歯科衛生専門学校の校長が構成員となっているため、校長・学部長が責任の所在であることが明確になっている。</p> <p>歯科衛生士学コアカリキュラムに従っている授業科目に則した教員を配置している。各担当教員は松戸歯学部の講義・実習を担当している各講座の専任教員であり、資格・業績・年齢等を鑑み推挙されていることから、適切な教員組織が編成されているといえる。</p> <p>教員組織の方針に関しては、毎月学事委員会・教員会等の開催により教員間の連携・情報の共有しているほか、講師会・臨床実習指導者会を開催して、学習指導・成績判定に関する方針の共有も行っている。</p>	A	<p>教員数は設置基準、学則を満たしており適切であるといえる。</p> <p>また教科担当および臨床実習指導者として松戸歯学部教員の支援もあり非常に充実している。</p> <p>カリキュラムポリシー5項目達成の為、教員編成に歯専校校長副校長を始め、専任教員、各講座の歯科医師の配備と病院歯科衛生士を加えると60名弱のメンバーで、編成されている。歯科衛生士育成に多くの人材が関わっている。教員間の連携、情報共有のために、4つのワーキンググループ（国試対策、院内教育、広報、研究）も機能されていて、その内容は教員会で情報提供される。</p>	<p>各委員会、各担当教員は、適材適所に振り分けられて運営しており、教員組織は優れた機能を発揮している。</p> <p>大学病院附属校の特徴を生かし、多くの指導者の元で、学習、経験できる事は、歯科衛生士の人生にとっても有意義である。教員の人数が多くなれば、情報共有も難しくなるであろう。指導者間の公平な情報共有をお願いしたい。</p>	<p>各講座の臨床実習を担当する線に教員には、学習指導、成績判定に関する方針の共有があるが、その他学生が補助につく医局員までは浸透しておらず、対応がまちまちである。</p>	特記事項なし。	A

# 令和2年度学校関係者評価票

学校名：松戸歯学部附属歯科衛生専門学校

**【学校関係者評価の主な評価内容】**

○自己点検・評価結果の内容が適切かどうか ○自己点検評価の結果を踏まえた今後の改善方策が適切かどうか ○学校運営の改善に向けた実際の取組が適切かどうか。

評価項目	専門学校による自己点検・評価		学校関係者評価				
	取組状況・評価に対する意見	取組評価	取組状況・評価に対する意見等	優れている点、継続してほしい点	問題点・要望等	その他意見等	取組評価
<p>(専門学校ごとに任意に設定する重点目標)</p> <p>入学後の進路変更を防止するために、学校生活を魅力的なものにするとともに、歯科衛生士となるための高いモチベーションをもって学生生活を送れるよう更なる改善を図る。</p>	<p>1年生については、各自の入学時点での学力を把握してもらうために、入学直後に学力調査（主に理科と数学）を実施し、翌日に得点と偏差値及びクラス順位を通知している。同資料は、学習するモチベーションを上げるために三者面談の資料としても活用し、学業成績不振による退学とならないための学習方略の一助となっている。また、定期試験等の結果を直ちにクラス担任に知らせよう各授業科目担当者に要請し、試験結果が振るわない学生に対しては、その原因と対策について担任や学事委員による面談を行い、学生の現況を把握することに努め、学習意欲の低下による退学者の防止に努めている。上級生については、臨床実習において不安や悩みを抱えていると思われる生徒を病院衛生士や臨床実習指導者と連携しながら抽出し、個別に面談を実施している。いずれの学年も個人面談を頻繁に実施することにより、学生に生じている問題に対して早期にアプローチし、修学へのモチベーションの低下に繋がらないように努めている。令和2年度においては特に新型コロナウイルス感染症に対する修学不安を減らすために、学生と密にコンタクトを取っている。</p> <p>各講義内容については、受講した学生に対して内容評価のアンケート調査を実施し、結果を講義担当者にフィードバックすることで、学生が興味を抱きやすい内容に改善してもらっている。</p> <p>教職員は、定例のミーティングを実施しており、講義・実習や学校生活上での個々の学生の現況について情報を共有し、対策を講じていくことに努めている。</p>	A	<p>効率的な指導が段階的になされており、先回りした対応策が評価される。</p> <p>今年度のコロナ感染症に対する学生の不安を軽減させるための対応も評価できる。</p> <p>進路変更者を分析し、問題解決に向けて取り組んでいる。各学年で三者面談を実施しサポートしている。学業不振者は定期試験の結果をクラス担任へ報告し、対策を取り、経済的な面のサポートは日大の貸付等の紹介ができるようにサポートしている。コロナ禍での授業の実施を丁寧に説明していただけた。いろいろな問題を克服しながら、授業の延期、オンライン授業、6月からの対面授業、学生へ細やかなアンケートを実施して、確認を取り、通学不安者の対応やメンタル面のサポートも取られている。このアンケートで一層学生に寄り添う授業の方法をとっている。出来るだけ学生に金銭的な負担をかけないようにの工夫も対策となっている。3年生の研究発表もコロナ禍を題材に感染症を深く学んで、恐怖や不安を学びに変えている。院外実習は難しいが創意工夫で取り組んでいる。</p>	<p>授業においてクラス担任、科目担当者が、実習においては病院衛生士や臨床実習指導医と連携しながら、学生に寄り添った指導を行っている。</p> <p>学生一人一人に目が配られているため、脱落者の発生を可能な限り防いでいる。</p> <p>入学後の進路変更の防止を重点目標として挙げられた事を評価する。入学許可をして、最終的な目標の歯科衛生士国家資格を取得することこそ、衛専校の使命だと思う。コロナ禍で新しい生活の状態での授業になり学校、生徒、保護者も戸惑われていると思うが、生徒は先生、学校が頼りとなるので、小さな声を聞き逃さないように、寄り添っていただきたい。衛専校の良いところは、校長先生、副校長先生、教務主任の先生そして一番身近にいる専任教員先生方が家族のような雰囲気、生徒と学生生活を共に過ごしているところである。行事に出席した時にその雰囲気が良くわかる。これは衛専校の伝統的な雰囲気であり、継続していただきたい。生徒とのコミュニケーションは、1日では生まれないので、日々の努力をお願いしたい。</p>	<p>今年度はコロナ対策で対面授業や院内実習に代わりリモート授業がなされ、それに伴うレポートの課題も多く、友達とも会えず心理的な負担が大きかったようだ。</p>	<p>特記事項なし。</p>	A